

母乳栄養1カ月児のヘパラスチンテスト からみたビタミンK予防投与法の検討

東邦大学小児科:

沢田 健, 高橋 玲子
月本 一郎, 埴 嘉之

目 的

東邦大学大森病院周産期センターでは1980年から本年までの5年間、院内出生の正常新生児に対してVK₂シロップの予防投与を実施してきた。最近1カ月健診時のヘパラスチンテストで、40%未満の低値者が予防投与群には皆無になった。その効果を統計的に検討した。

対象と方法

対象は日齢28-45日の健康母乳栄養児で総数236例である。

1980-1981年に出生した児は予防投与のない群で4週目にヘパラスチン・テスト(Hpt, 全血足趾採血法10mc1)を実施した(第I群, N=86)。1982年は出生時と3週目にVK₂Sy 4mgを投与した(第II群, N=62)。1983年は出生時と3週目に2mgを投与(第III群, N=46)。1984年は出生時と日齢6日に2mgを投与(第IV群, N=42)した(図1)。

結 果

Hpt値の平均値±S. D. は第I群64±15%, 第II群73±9**, 第III群69±12%, 第IV群73±13*%で第I群とII, IV群間にSudent-t testで有意差が認められた(図2)。(**p<0.01, *p<0.05) 次にHpt値60%未満の出現率と80%以上の出現率を比較すると第I群に比べ60%未満の出現率は第II, III, IV群ともに有意に少なく、80%以上の出現率は第I群に比べ第II, IV群に有意に多かった(図3)。

結 語

正常新生児(母乳栄養)にVK₂Syを2~4mgを2回経口投与することにより平均値は10%近く上昇し、又低値者(Hpt<60%)を有意に少なくすることが示唆され、このような投与法を行なうことによりいわゆるアミス例(Hpt<10%)および出血症例をなくすることが可能であると思われる。

PROTOCOL of VK₂Sy. ADMINISTRATION

1980-1984

	0-----1-----2-----3-----4 wks				
	at birth				Hpt
I (80-81)					≡
II ('82)	4mg			4mg	≡
III ('83)	2mg			2mg	≡
IV (84)	2mg	2mg			≡

図1

Hpt of Breast-fed Infants(1980-1984)

Group	No. of Infants	Mean±S.D.(%)	(min-max)
I	86	64±15	(40-110)
II	62	73±9 **	(55-90)
III	46	69±12	(56-105)
IV	42	73±13*	(46-93)

* p<0.05, ** p<0.01 (by Student-t test)

图 2

Incidence of Low and High Level of Hpt between Four Groups

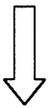
Group	No	Hpt(%)	
		less than 60	more than 80
I	86	32	6
II	62	4**	20**
III	46	6*	8
IV	42	6*	12**

statistical difference: * p<0.05, **p<0.01 by chi square test.

图 3



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



目的

東邦大学大森病院周産期センターでは1980年から本年までの5年間、院内出生の正常新生児に対してVK2シロップの予防投与を実施してきた。最近1ヵ月健診時のヘパプラスチンテストで、40%未満の低値者が予防投与群には皆無になった。その効果を統計的に検討した。